
懐かしい音、アイスティー。

笹沢 莉瑠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

懐かしい音、アイスティー。

【Nコード】

N5027N

【作者名】

笹沢 莉瑠

【あらすじ】

懐かしい音。それが耳に入り込んでくると、あなたの心に浮かび上がる人はいませんか？

静かに連なる、霞みかけた、心に響く、やわらかい、そんな音。

いつからだろう？

聞いたことも無い音を、なんとなく、懐かしいと思うのは。

何故だろう？

その音が、だれともつかない、優しげな人の後姿をみせてくれるのは。

いくつもの話し声。だれかが声高に、むかつく、といっている。

いくつものコップ。だれかが、氷の入ったコップにストローを入れてかき回している。いくつもの携帯電話。だれかがしきりに、携帯を開いたり閉じたりしている。

何も変わったところなんてないのに、私は飽きることなく周りを見ている。何処にでもある、普通の喫茶店でアイステイーを飲みながら、時間をもてあましていた。

意識すると、なぜか急にレモンのすっぱい匂いが、口の中に広がった。アイステイーにいつも入れるのだけれど、ここのお店では置いていないレモンが恋しくなった。

氷が音を立てた。それほど珍しいことでもないから、視線がこっちに集中することはなかった。冷たいアイステイーを口に含んで喉へ滑らせると、今まで感じなかったほのかな苦さが鼻の奥をくすぐ

った。

びっしりとコップの外側に張り付いた水滴が、私の左手の中に入り込んでいく。それが少しくすぐったくて、パッと手をコップから離れた。

水滴が手の中から手首へしたたたっていく。私はそれをくいとめるためにおしぼりで、水滴を軽くふき取った。

ふと、視線を店の中から店の外へと移してみた。だれかの指紋がのこっている窓に、うすく自分がうつっていた。

通り過ぎていくだれかたち。私のほうを見る訳がないと、頬杖をついた私は普通に思っていた。こっちを見たとしても、それはただ顔が向いただけだったりとかで、相手は無意識だ。

カップルが通り過ぎると、なにも感じなくて。家族連れが通り過ぎて、とくに感じたことは無くて。買い物をする二人の女の子が通っていても、ただそれを見ていた。

たった一度だけ、私は震えた。

一瞬だけ、ほんの一瞬だけ。通り過ぎる人の肩と顔のあいだから一瞬だけ、私を見つめた人がいた。視線が交差したと思ったら、その人は顔をうつむかせて通り過ぎていく人達にまぎれていった。

隙間から見えた後姿に、なんだかひかれた。体の芯のようなものが、ボツとすぐさま高温になりサツと氷点下に冷えた。

喫茶店のなかで流れていたBGMが、急に耳に流れ込み始めて、懐かしくてやさしくて繊細な音が、心の奥でいつも見ていた後姿を鮮明にさせる。

あのひとなのかな。

喜びに舞い上がりそうな手をきゅっと握り、荷物を手早くまとめた。会計をすぐに済ませて、自動ドアの勝手に開く音が聞こえるこ

ろには、私の頬は紅潮していた。

常に心にいた存在の、愛しい名前を呼びながら抱きつければ。

あなたはどんな反応をみせてくれるかな。

（後書き）

なろうに入ってから一周年を記念しまして、ちょっとした短編をさらつと書いてしまいました。

えーと、私の名前に見覚えが無い方々、初めまして。短編が若干苦手な笹沢 莉瑠といいます。

最後までお読みいただきありがとうございます。おかげで日陰でひっそりと一年を迎えさせていただきました。

これを読んで私に興味を抱いてもらえれば、と思いますが基本恋愛苦手です。自分が。

ですので、ちょこちょこ短編を出します時には名前を、覚えてくださればと思います。作者のマイページで、ほかに書いた物がのっていますので、暇つぶし程度に見てやってください。

えーと、私の名前に見覚えがある方、ありがとうございます。どこで知ったんだろう、という疑問はしません……。どうも、ファンタジーが好きで中二病に片足をつっこんでいる笹沢です。というか、見覚えがある人。いるんでしょうか？ 本当に心配です。

はい、くだらだと、駄文失礼しました。誤字脱字等ありましたら、ぜひとも作者にお知らせねがいます。それでは、失礼します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5027n/>

懐かしい音、アイスティー。

2011年1月20日04時09分発行